

目的・方向性	・地域のことを地域で話し合い、魅力的な地域をつくる取組を支援する。 ・公民館等での、社会教育活動を通して次代を担うリーダーの育成を進める。 ・健康長寿のまちづくりや女性の活躍する社会づくりの推進など、様々な場で地域づくりに関わる担い手やリーダーを育成する。 ・地域づくりに多様な視点からアプローチするNPO法人の育成を図り、協働してリーダーの育成を進める。
ターゲット	・地域自治組織等現在中心となって地域づくり、地区活動を進めている方 ・会長を支え、ともに活動を作っていく役員、部会長等 ・伝統芸能等観光資源の活用に取り組む人材 ・地域福祉の担い手 ・益田市外の方で益田市への移住、定住に興味や希望のある方

【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】
※①～③が合致するように記載すること	※①～③が合致するように記載すること	※①～③が合致するように記載すること
I. 連携した取組 （１）益田市協働推進ネットワーク庁内会議の設置 【進捗状況】 ・6/26 課長会議 実施 ・3/10 政策調整会議にて協議 II. 各課取組 （１）連携のまちづくり推進課 （ア）地域自治組織を中心とした地域づくりの推進 【進捗状況】 （i）地域づくり担当者的会議 ・地域魅力化応援隊員や地域マネージャーをはじめ地域づくりに関わる人を対象に情報共有や研修を毎月1回開催。 内容:「魅力的なおたよりをつくるコツ」「イベントに参加したくなるチラシづくりのポイント」「効率的に会議を進めるためのファシリテーション」他	I. 連携した取組 （１）益田市協働推進ネットワーク庁内会議の設置 ・令和7年度からの庁内会議の設置について議論を深め、庁内合意を図った。 II. 各課取組 （１）連携のまちづくり推進課 （ア）地域自治組織を中心とした地域づくりの推進 （i）地域づくり担当者的会議 ・関係課や社会福祉協議会など様々な組織が参加したことで有意義な情報共有が図られ、地域自治組織の活動の活性化につながった。また、情報発信等、実務的な内容の研修を行ったことで、地域を支える人材の育成を図ることができた。	I. 連携した取組 （１）益田市協働推進ネットワーク庁内会議の設置 【課題】 ・多様な地域課題の解決にあたるための情報の蓄積、ノウハウの構築 【今後の取組方針等】 ・複雑化する地域課題に対して担当課を超え横断的に対応 ・現場を知り、住民との対話を通じ課題解決にあたる職員の人材育成 5月 全体会議 6～7月 地区別担当者会議 随時 地区訪問、訪問記録の共有 12月 まちづくりラウンドテーブル 3月 全体会議 II. 各課取組 （１）連携のまちづくり推進課 （ア）地域自治組織を中心とした地域づくりの推進 【課題】 ・地域活動団体（地域自治組織、NPO法人等）同士及び、団体と行政、その他関係機関との関係づくり ・地域活動団体の担い手が不足しているため、担い手となる人材の発掘 ・地域活動団体のスキルアップ 【今後の取組方針等】 ・庁内連携を図り、協働して地域支援に取り組む。 ・引き続き地域同士の情報共有や研修の場を設け、地域づくりの担い手となる人材発掘・育成を図る。

（ii）益田市地域づくりフォーラム ・地域活動の学びの場、また地域づくりに取り組む人が日頃の活動を称え合う場として実施 2/1 開催 参加者 142 名 「発表ブース」「体験ブース」「ポスター展示」により各地区のまちづくりの事例発表を行った。 （イ）地域づくり人養成講座 ・地域づくりに興味関心をもち、主体者意識を持って活動する若者を増やすことを目的に開催 【進捗状況】 第 1 回 5/25 開催 参加者 20 名 内 容：参加者同士の交流及び地域活動の拠点の一つとなる、地域交流スペースユタラボの利用体験 対象者：過去 3 年以内に益田市に UI ターンした方や、益田市に就職したばかりの社会人等 第 2 回 9/4 開催 参加者 5 名 内 容：各地域で行っている活動の紹介や各活動の連携を企てるためのワーク 対象者：既に地域活動を行っている、次世代の地域づくりの担い手 第 3 回 12/7、14 開催 参加者 5 名 内 容：地域活動をまずは体験してみる機会として、地域イベントでの出店を実施。 12/7：北仙道地区の産直市「きんさい市」の出店企画 12/14：「きんさい市」出店 対象者：地域活動に興味がある方、若手社会人等 （ウ）NPO（法人含む）活動支援 【進捗状況】 （i）情報発信 ・「すまいる通信」の発行（イベントや補助金の情報、団体の紹介等）	（ii）益田市地域づくりフォーラム ○参加者アンケートの結果より ・地域づくりの重要性を認識する機会となった（100％） ・地域づくりをより推進していくための活動のヒントを得た（97％） ・地域活動へのモチベーションが高まり、これからの目標を考える機会となった（95％） ・地域づくりに取り組む人同士のつながりが生まれた（93％） （イ）地域づくり人養成講座 ○参加者アンケートの結果より 第 1 回 ・益田市内での人とのつながりができた 94%(15/16) ・仕事と家庭以外の時間を充実させたいと思った 100%(16/16) ・地域で活動してみたいと思った 100%(16/16) 第 2 回 ・地域活動のヒントを得られた 100%(5/5) ・さらに地域活動へのモチベーションが高まった 100%(5/5) ・一緒に地域活動を行っていく仲間ができた 100%(5/5) 第 3 回 ・今後も地域活動を行いと思った 100％(5/5) ・地域で活動することへのハードルが下がった 80％(4/5) ・地域活動へのモチベーションが下がった 100％(5/5) （ウ）NPO（法人含む）活動支援 （i）情報発信 ・各種媒体で団体の活動や助成金等の情報を発信したことで、多くの方に団体の活動を知ってもらうきっかけとなった。また、団体が実際に補助金を活用することにつながり、	（イ）地域づくり人養成講座 【今後の取組方針等】 ・引き続き、新たな地域づくりの担い手の発掘、既存の担い手の育成に取り組む （ウ）NPO（法人含む）活動支援 【課題】 ・団体の高齢化による担い手不足 【今後の取組方針等】 ・団体が抱える課題を把握し、それに応じた研修会の開催や
---	---	--

【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】

【②成果】

【③課題と今後の取組方針等】

・Facebook の更新（団体の活動の様子等） ・ホームページ（団体紹介等） （ii）相談、印刷機利用対応 主な相談内容等 ・設立登記について ・事業報告書について ・活動について ・印刷機利用 （iii）研修会及び交流会の実施 ・団体の人材育成及び団体同士が交流する機会の創出 10/23 開催 参加者 7 名 win-win でコラボしよう！セミナー 2/20 開催 参加者 1 8 名 益田市民活動支援センター交流会 （エ）大学連携の推進 【進捗状況】 大正大学 6/21 大正大学での市長講演会 8/10 ひとが育ち輝くまち益田 夏フェスでの事例発表 9/30-10/11 地域実習生（2 年生・前半）受入 9/30-10/25 地域実習生（3 年生）受入 10/21-11/1 地域実習生（2 年生・後半）受入 2/15 地域実習報告会（オンライン） （オ）関係人口拡大事業 必ずしも転入を前提としない者を対象に実施。新たな人とのつながりを広げ、関係人口の創出から関わりの深化への流れをつくることを目的に実施。 （カ）首都圏等で開催される移住フェアへの参加（現地イベント） 【進捗状況】 7/13 しまね移住フェア&しまね暮らしマルシェ in 大阪 10/19 しまね移住フェア&しまね暮らしマルシェ in 東京	活動支援の一助となった。 （ii）相談、印刷機利用件数 ・2 月末現在 9 9 件（相談等件数 5 4 件、利用件数 4 5 件） 昨年度実績：1 6 2 件（相談等件数 8 3 件、利用件数 7 9 件） （iii）研修会及び交流会の実施 ・交流会では団体の事例紹介や団体同士の対話を行ったことで、新たな気づきやつながりづくりの機会となり、市民活動を行う人材の育成につながった。また、実際に互いの活動に参加するなど、活動の活性化につながった。 （エ）大学連携の推進 大正大学 ・夏フェスでの事例発表では 30 名程度の参加者に対し、大正大学との連携の取組と、取組を経て益田市内に定着している卒業生の活動やその思い等を知っていただいた ・地域実習を通して益田市を好きになった大学生が実習以外にも益田市へ訪れ、関係人口となった（夏フェスや地域づくりフォーラムに参加）。 （オ）関係人口拡大事業 まずだ暮らしセミナー（豊かな暮らしトークセッション）や益田市での現地体験を行い、80％以上の参加者から今後益田市と関係人口として関わりたいとの意見をいただいた （カ）首都圏等で開催される移住フェアへの参加（現地イベント） 大阪では 21 組（24 名）、東京では 31 組（43 名）の方に益田市の相談ブースへ来場いただいた。観光交流課や空港対策室、農林水産課とともに移住フェアに参加し、PR や移住相談などを行った。	団体同士のつながりづくりに取り組み、市民活動団体の活動支援及び人材育成を図る。 （エ）大学連携の推進 【課題】 ・地域実習終了後の継続的な関わりづくり 【今後の取組方針等】 ・引き続き地域実習の受け入れ等を通じ、連携を図り、関係人口として地域づくりに関わる人材を増やす。 （オ）関係人口拡大事業 【課題】 ・セミナーや現地体験参加後の継続的な関わりづくり 【今後の取組方針等】 ・セミナー：約 120 名・現地体験：21 名（3 回目除く）の参加があり、引き続き益田市の魅力発信に努める （カ）首都圏等で開催される移住フェアへの参加（現地イベント） 【課題】 関係機関の参加旅費の予算措置。 【今後の取組方針等】 引き続き庁内関係課や関係機関と連携し、移住フェアでの相談者数の増に向けて取り組む
---	---	---

部会名：地域の担い手づくり部会（連携のまちづくり推進課、福祉総務課、観光交流課）			【資料 1－3】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
(キ) ひとが育つまち益田ウェブサイト（ますだのひと）による情報発信 【進捗状況】 ・益田市で暮らしている方々の暮らしを可視化するとともに、益田のひとの生き方だけでなく、暮らしや暮らしの価値を可視化する ・UI ターン者サポート宣言企業への取材を引き続き実施し、仕事の魅力を伝え若者の地元就職を促す ・記事の数だけを増やすのではなく、各部会の現状・課題に沿った記事の作成を行い、ターゲット層となる方々に関心を持ってもらう ○地域の担い手部会（連携のまちづくり推進課、福祉総務課、観光交流課） 目的：地域づくり等活動をされている方、地域福祉に携わる方の価値づけ 益田市外の方に益田の暮らし・ひとなど魅力を知ってもらい、益田のファンを増やす 益田市内外の方に地域福祉の体制を知ってもらうことで、安心して生活できる地域という認識に繋げる ターゲット層：地域づくり主体者、移住検討者、地域活動を知らない方、福祉課題を抱える方、地域福祉活動を知らない方、地域福祉に携わりたい方 ○産業の担い手部会（産業支援センター、農林水産課） 目的：地域で産業の活性化に尽力している方の価値づけ 益田市内外の方に地域産業を知ってもらうことで、地域産業の新たな創出に繋げる ターゲット層：地域産業を知らない方、これから事業を始めようと思う方	(キ) ひとが育つまち益田ウェブサイト（ますだのひと）による情報発信 ・令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日時点 全体【ユーザー数：58,000 ユーザー、ビュー数：470,000 ビュー】 平均【月/ユーザー数：4,833 人、月/ビュー数：39,166 回】 記事投稿数 38 記事（うちイベント周知記事：15 記事） ・令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日時点 全体【ユーザー数：57,000 ユーザー、ビュー数：442,000 ビュー】 平均【月/ユーザー数：5,182 人、月/ビュー数：40,181 回】 記事投稿数 49 記事（うちイベント周知記事：20 記事） 主な記事の内容 ①恩師のライフキャリア教育の紹介 ②UI ターン者のライフキャリア教育の紹介 ③大学生のライフキャリア教育の紹介 ④高校生のライフキャリア教育に関する記事（協働のひとづくり推進課での委託業務） ⑤その他各課での紹介やイベント等の発信 など	(キ) ひとが育つまち益田ウェブサイト（ますだのひと）による情報発信 【今後の取組方針等】 ・引き続き各課と連携し、益田市内外のターゲット層となる方々に益田市での暮らしや仕事の魅力等についての情報発信を行う	

○未来の担い手部会（協働のひとづくり推進課、こども福祉課、学校教育課） 目 的：益田市が取り組むライフキャリア教育プログラムの価値づけ 益田市内外の方に益田市が取り組むライフキャリア教育プログラム（対話＋・職場体験・サードプレイス等）の内容を知ってもらうことで、新たな人との関わりの創出やプログラム内容の充実に繋げる ターゲット層：益田市のライフキャリア教育・ひとづくりに興味・関心のある方 （ク）新たな「移住・定住」プロジェクト推進事業 ○情報発信の強化 ・益田市のライフキャリア教育の取り組みを移住検討者向けに紹介するサイトを構築した。 ⇒10月17日に「MASUDA no Hito」サイト内に専用ページを開設した。 ○益田市のライフキャリア教育の体験を含めた「親子お試し移住体験」の実施 1回目：令和6年12月13日～15日（受入れ地区：豊川地区） ⇒希望者が無かったため未実施 2回目：令和7年2月28日～3月1日 ⇒1組参加（江津市から、大人2名・子ども3名） ※当初2組の応募あったが、1組は体調不良により不参加	（ク）新たな「移住・定住」プロジェクト推進事業 市の紹介、お試し移住体験の募集、移住者・体験者の声を掲載し、SNS（インスタグラム）での有料広告を活用することで、多くの方に閲覧していただくことができた。 ・市外から1組の参加があり、市で取り組んでいるライフキャリア教育やますだ暮らしの魅力を感じていただくことができた。	（ク）新たな「移住・定住」プロジェクト推進事業 ・集客が課題であったことにより、来年度は実施体制等の見直しを行う。 ・観光旅行ではなく、ますだ暮らしを体験できる機会の提供を行い、移住定住に繋げる。
---	--	---

（２）福祉総務課 （ア）福祉人材確保の取組 【進捗状況】 ・福祉人材確保に係る作業部会（８回開催） 福祉人材確保の課題解決に向けて取り組んでいくことについて、賛同していただいた福祉事業所や福祉教育機関等から、若手を中心とした数名の職員を作業部会のメンバーとして選出していただき、庁内関係課とも連携しながら、今年度は介護人材にフォーカスして活動を進めている。令和７年１月からは、新たに雪舟園から２名作業部会へ参加いただき、更なる活動を進めている。 庁内関係課：福祉総務課、高齢者福祉課 参加事業所等：NPO 法人 志塾フリースクール 社会福祉法人 梅寿会、社会福祉法人 暁ほほえみ福祉会、明誠高校、翔陽高校、雪舟園 より計１１名参加 ・夏フェスでの福祉ブースの取組（8/10） 福祉について興味を持ってもらうことを目的に、福祉をあまり知らない人（特に小・中学生）をメインターゲットとして、参加者と対話をしながら介護体験ができる福祉ブースを作業部会のメンバーと協働して取り組んだ。 ※明誠高校、翔陽高校の生徒も当日参加（５名） ※実習受入れ中の美作大学生も当日参加（２名） （イ）大学生の受入 【進捗状況】 社会福祉士の資格取得のために必要となるソーシャルワーク研修について、２つの大学から実習生を受入れた。実習受入期間中は相談支援業務などの社会福祉士の業務に同行していただき、行政で働く社会福祉士や福祉事務所での業務について学んでいただいた。 ・島根大学 人間科学部社会福祉コースの４年生、１名を受け入れ	（２）福祉総務課 （ア）福祉人材確保の取組 市内福祉事業所からも作業部会のメンバーを募ったことで、今まではあまり機会の無かった、福祉事業所間での若手職員の意見交換や、交流の場となった。 また、夏フェスでの福祉ブースの取組により、益田市内外の方に、実際に市内の福祉現場で働く方や、福祉を学んでいる学生と接しながら福祉を体験していただく機会を創出することができた。 福祉人材確保に関連した取組として、作業部会にて市内福祉事務所の若者を対象としたトークセッションを３月１４日に企画した。 （イ）大学生の受入 将来福祉関係の仕事を志す大学生に、益田市の福祉の現状とそれに対する市役所の取組を知ってもらうことで、福祉人材の育成に繋げた。	（２）福祉総務課 （ア）福祉人材確保の取組 【課題】 益田市内の福祉職場において、人材の確保と他分野への人材の流出を防ぐことが喫緊の課題となっている 【今後の取組方針等】 今年度残り期間における作業部会の取組の方向性として、主に「介護人材の定着」について着目し、トークセッションの取組を進めたため、トークセッション終了後に反省を含めて来年度の方向性を決めていく。 （イ）大学生の受入 【課題】 大学と連携した今後の取組内容の検討。 【今後の取組方針等】 今年度の共同研究の振り返りと、来年度の取組に向けた検討会を継続する予定。
---	--	--

部会名：地域の担い手づくり部会（連携のまちづくり推進課、福祉総務課、観光交流課）			【資料 1－3】
【①取組の進捗状況・前年度からの改善点等】	【②成果】	【③課題と今後の取組方針等】	
(7/3～7/12) ・美作大学 生活科学部社会福祉課の3年生、2名を受け入れ (8/9～8/21) ・美作大学と連携・協力に関する協定書を締結（5/24） その中に人材育成、人材確保に関する事項を盛り込んだ。 ・身寄りのない人が安心して暮らせるまちづくりワークショップを開催した。（11/11） 美作大学の学生6名による研究報告を行った。 （ウ）民生委員・児童委員協議会（なり手の確保） 【進捗状況】 なり手の不足の原因の一つとして活動内容の複雑化や活動量の多さがある中で、負担軽減のためまずは、庁内にて活動内容の精査を行った。 （エ）生活支援体制整備事業（受託者：益田市社会福祉協議会） 【進捗状況】 益田市防災支援研修の開催（7/4、7/5） 市民の防災意識の向上、災害時に備えた平時のつながりの構築を目的に、益田市社会福祉協議会と共催で開催。 益田市生活支援体制整備事業研修の開催（2/27） 防災活動を通して支え合いの地域づくりを推進することを目的に、受託先が開催。	（ウ）民生委員・児童委員協議会 【成果】 庁内で民生委員・児童委員へ依頼している内容を精査し、証明事務の関係で活動量が減少し、負担を軽減することができた。 （エ）生活支援体制整備事業 災害に備え、最も身近な存在である地域住民同士のつながり意識の醸成、自助・共助防災の取組について考えるきっかけとなった。	（ウ）民生委員・児童委員協議会 【課題】 なり手不足が全国的に増加傾向にある。 【今後の取組方針等】 地域（地区社協）に赴き、なり手確保の協力を依頼する。また、広報活動を行い、民生委員・児童委員の活動を広め、なり手を確保する。 （エ）生活支援体制整備事業 【今後の取組方針等】 引き続き受託先と連携し、防災をキーワードとして平時からの「人と人」「人と資源」とをつなぐ活動を行う。	

（３）観光交流課 （ア）ボランティアガイド養成講座 【前年度からの改善点等】※変更点 例年は市の歴史や文化財を幅広く学ぶ講座だが、今年度は11月16日、17日に開催される全国山城サミット益田大会に向け、七尾城、益田地区の文化財に絞った内容としている。 【進捗状況】 ・第1回（8/3）、第2回（8/24）、第3回（9/14）が終了 ・第4回（9/28）、第5回（10/12）、第6回（10/26）、第7回（11/9）、第8回（11/17）、第9回（11/30） →第8回については、山城サミット当日、七尾城跡でのガイドを実施 （イ）石見神楽を活用した観光振興及び次世代育成PJ事業 【進捗状況】 ・5/12～5/19 MASUDA 石見神楽 WEEK の実施 ・11/7、1/27 石見神楽を活用した次世代育成プログラム実施 （ウ）日本遺産を活かしたまちづくり推進事業 【進捗状況】 ・日本遺産関連事業補助金の交付（計14件） ・全国山城サミット益田大会に向けた協議等の実施	（３）観光交流課 （ア）ボランティアガイド養成講座 ○講座への参加者：すべて7名以上 ・全7回の講座によって、益田の歴史文化やその魅力を伝えることのできるガイドを養成、第8回では全国山城サミット当日にガイドを行い、全国の方々に益田の歴史文化を発信することで、地域観光資源の再認識と活用人材の育成を行った。 （イ）石見神楽を活用した観光振興及び次世代育成PJ事業 ・MASUDA 石見神楽 WEEK においては、シンポジウムを開催することにより石見神楽の歴史や変遷について学ぶ機会が創出されるとともに、子ども神楽体験や石見神楽衣裳、塗り絵の展示を通し、若い世代や子どもが石見神楽に触れることで、次世代を担う者へ継承するきっかけづくりとなった。 ・11/7 益田小学校4年生（56名） ・1/27 吉田小学校4年生（102名） 石見神楽の次世代育成のための事業として、一社）MASUDA カグラボにより実施。より大規模校での実施を行い、今後の石見神楽の担い手となる子どもたちへ、広く普及啓発を行った。また、地域で実際に担い手として活動する神楽社中員と今後担い手となり得る子どもたちとの交流の場となった。 （ウ）日本遺産を活かしたまちづくり推進事業 ・日本遺産関連事業補助金（申請：14件） 11/16.17日に開催される全国山城サミット益田大会の開催されることもあり、多数の申請がある。民間団体等を中心として児童、学生から大人まで多世代で連携し、市の日本遺産PR等に努めており、今後、日本遺産の認知度向上や観光	（３）観光交流課 （ア）ボランティア養成講座 【課題】 参加者が少ないこと。 【今後の取組方針等】 令和6年度は、山城サミット開催に伴い受講者が増加したが、今年度の増加が一過性とならないよう、様々な媒体等を活用し、広く周知し、多くの参加を募ることで、ガイドとなる人材の増加を目指す。（来年度以降） （イ）石見神楽を活用した観光振興及び次世代育成PJ事業 【課題】 市内の他神楽イベントとの連携 【今後の取組方針等】 一社カグラボ、石見神楽神和会、観光協会等と引き続き協議する。 【課題】 神楽社中のない校区での実施方法の検討 【今後の取組方針等】 独自収益化が困難、かつ石見神楽の担い手育成に有効な事業について、引き続き財政支援を行う。 （ウ）日本遺産を活かしたまちづくり推進事業 令和8年度に迎える再認定継続審査に向け、今後更なる民間団体の取組を促進し、取組に対する伴走支援を行う
---	---	--

（エ）益田版DMO設立支援事業 【進捗状況】 ○プロジェクト会議 ・4/24 第7回プロジェクト会議 ・5/14 第8回 〃 ・6/11 第9回 〃 ・7/18 第10回 〃 ・10/4 第11回 〃 ・11/25 第12回 〃 ・2/19 第13回 〃 ○研修会・講演会 ・11/25 DMO市民向け講演会	面での活用を担っていく人材の育成につながっている。 ・全国山城サミット益田大会に向けた協議等の実施 地域が一体となり、オール益田で取り組むイベントとするため、地元の関係者等と密に協議を進めることで、単なるイベント開催ではなく、山城サミットを契機として、多くの市民が日本遺産に関心を持ち、長期的な視点では、日本遺産の認知度向上や観光振興に携わっていく人材の育成につながっている。 （エ）益田版DMO設立支援事業 ○益田版DMOの推進体制の決定 ・最終決定機関 社員総会 ・意思決定機関 理事会 ・意思決定前協議機関 DMO推進委員会 ・企画立案機関 ワーキンググループ ○市民の合意形成の提供 ・DMO市民向け講演会 （参加者：一般市民、事業所関係者等 29 名）	（エ）益田版DMO設立支援事業 【今後の取組方針】 ・事業者や一般市民を対象とした研修会等の人材育成を行う。
--	---	---

特記事項	
------	--